

共範疇語 [共義語]

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/43351

る他のもろもろの意味と結合することによってのみ具体性を獲得しうるものであり、意味の全体の中でのみそれは〈存在〉しうるのである」[LU II/1 304f., 312]。それゆえこの問題は、実は独立性と非独立性というより大きな現象学的主題の文法的な変奏にはかならない。⇒㊸独立性／非独立性，独立的意味／非独立的意味，㊹マルティ(柴田正良)

共範疇語〔共義語〕〔(独) Synkategorematika〕

自義語 (Kategorematika) を反対概念とする文法的区別。アリストテレスにまで遡るこの区別では、自義語とは〈それ自体で完全な意味をもつ言語表現〉であるのに対し、共範疇語とは〈それ単独では完全な意味をもたず他の言語表現と結合して初めて意味をもつ言語表現〉である。たとえば「と結びついて」「と」「あるいは」などの表現は、「AとB」のように他の表現と結びつくことによって初めて意味をなす。マルティはこの区別を表象、判断などの心的現象の観点から捉えなおし、独立の心的現象を単独で伝達しうる言語記号を自義的 (autosemantisch) とし、そうでないものを共義的 (synsemantisch) とした。しかし、文法的区別はむしろいっそう本質的な意味の領域における区別の表れであるとするフッサールは、意味に関して「独立的意味」と「非独立的意味」の区別をもうけ、意味そのものの非独立性こそ共範疇語の本質をなすと言う。すなわち「非独立的意味は、ある具体的な意味作用の非独立的な部分作用の中でのみ実現され、この意味を補足す